

令和4年度 土浦日本大学高等学校通信制課程自己評価結果

令和5年度 取組目標との方策

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育活動 (教務)	各生徒の進路目標に即した指導を目指した、教員の資質の一層の向上	生徒一人一人の進路目標に即した学習指導及びICTの効果的な活用を推進する。特に、レポートの提出が遅れる状況が散見できるため、シラバスを十分に活用した指導の徹底を図る。	個々の生徒を把握して、年間を通して適切な教科指導を実践する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教科指導 (教務)	新学習指導要領に即した新カリキュラム実践の推進	各教科を中心に新学習指導要領に即した指導を実践する。また、生徒一人一人の進路目標に即した、適切なカリキュラムになるよう、授業計画を準備していきたい。 生徒一人一人の進路目標に即した指導を徹底するカリキュラム及び本校の教育システム全体を見渡し、年度の途中でも改善を図る。	教科会においてカリキュラムを定期的に検討するなど、教科会の充実を図る。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
学校生活への配慮 (生徒指導)	①生徒の把握	生徒が抱えている課題は一律ではない。普段から観察や声掛けにより個々の課題をしっかりと把握し、教職員で共通理解を図ることで、適切に対応する。	年間を通して実施していく。
	②挨拶の励行	教職員もしっかりと寄り添った指導の取組として、登下校時の挨拶(声掛け)を励行し、安心感や信頼関係の構築を図る。	年間を通して実施していく。
	③いじめの根絶	些細なことを敏感に感じてしまう生徒が多数在籍しているため、『未然防止』だけでなく、『早期発見』、『適切な対応』、『再発防止』が重要である。また、カウンセラーとの連携を図り、個々の課題に寄り添う指導を目指したい。	年間行事予定表に準じて実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
進路指導	①日本大学付属推薦への適切な対応	全日制と連携して基礎学力到達度テストの対策、指導に活かしてゆく。また、教員間で共通理解を図り、対応する。 推薦審査会や調査書の処理についても出願に支障が出ないよう万全の注意を払い、生徒や保護者の意思確認等を確実にやり、進路目標を達成できるよう対応する。	日本大学からの情報はその都度生徒、保護者に伝達する。教職員へは朝会・教職員会議で伝える。 保護者、生徒へは面談等を通じて詳細に伝える。
	②全日制課程開催の日本大学出張講義への参加	全日制で開催する生徒対象講演会、ガイダンスについては、通信制の生徒に参加を促し、自己目標の達成につなげたい。 生徒の進路目標を達成するために、基礎学力到達度テストについて三者面談等を通して生徒、保護者には十分な説明をすることで、必要な情報が確実に伝える。	年間行事予定表に準じて実施する。
	③日本大学への内部進学以外の適切な進路指導の充実	個々の進路目標を達成するために、日本大学付属推薦制度への適切な指導に取り組む。 また、国公立大学、私立大学への指定校推薦、公募推薦には、必要書類(志望理由書)作成指導や、論文指導、面接指導の充実を図りための適切な情報を教職員に提供する。	個々の入試方法にばらつきがあるため、遅延なく適宜指導する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育相談	生徒の学校生活への適応支援	生徒の状況や希望に即してカウンセリングの日程を調整し、スクールカウンセラーと面談又はWeb面談等の方法を企画し、実施の際には教員を同席させる。 教育相談体制を保護者にも理解して頂き連携を図る。 必要に応じ、特別支援教育の個別指導計画を立案する。また、個々の状況に応じて個別対応会議を適宜開催し、必要に応じては外部の諸機関との連携を図る。	生徒個々の状況に応じて適宜対応する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
いじめ防止対策	いじめの未然防止	<p>現在、通信制課程では生徒の接点が少なく、人間関係が希薄である現状を踏まえて、いじめ等の事案は確認されていない。しかし、今後、生徒の増加が見込まれ、多様な課題を抱える生徒も増えると予想できる。『未然防止』を軸として、『早期発見』、『適切な対応』、『再発防止』に取り組むことが重要になると考えらる。以上の状況から、教職員の観察や情報の集約、カウンセラーとの連携を推進する。</p> <p>全生徒対象としたアンケート調査を実施するほか、生徒、保護者には面談時に聴き取り調査を行う。把握した事案に対しては直ちに調査・認定・対応策を検討し、被害生徒の支援を最優先しつつ、加害生徒も支援する。また、関係保護者と情報を共有し、家庭における支援・指導を要請する。</p> <p>重大事態が発生した場合は県に報告し、外部有識者の協力も得て対応に当たる。また、犯罪行為の場合は警察とも連携する。</p> <p>事案に即した再発防止策を検討し、実施する。また、発生した事案を全教職員が共有し、同種事案発生防止に取り組む。</p> <p>いじめ問題に対する教職員の意識を向上させ共通理解を深めることを目的として、定期的な問題提起や情報提供を行う。</p>	生徒個々の状況や事案に応じて適宜対応する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
広報 (情報入試)	①新入生、転籍、転学の生徒確保の推進	<p>開校3年目を迎え、新入生確保に向けて中学校訪問を通して本校の特色を広報する。</p> <p>昨年度は年度の途中で転籍、転学者が36人編入した状況を踏まえ、高等学校訪問を通して編入者確保を目指す。</p> <p>茨城県通信制課程等連絡協議会への加入。私学フェア等への参加。ホームページのリニューアル。学校案内のリニューアル。新聞広告への掲載等により、合理的な広報活動を時期や展開を立案し、通信制課程の広報、イメージの定着を図る。</p> <p>個別相談体制を強化し、より多くの受験生・保護者に説明して、受験生、編入性のニーズに即した内容をアピールし、生徒数確保に努める。</p>	<p>2月～5月：学校案内作成、訪問チラシ作成</p> <p>4月～6月：出身中学、高等学校校訪問、</p> <p>8月：個別相談会</p> <p>7月～12月：中学校、高等学校校訪問、</p> <p>2月、3月：個別相談会</p> <p>1月～：入学試験</p>
	②インターネットを活用した生徒募集活動	<p>インターネットを活用した生徒募集活動をさらに推進する。</p> <p>ホームページの改善、「Youtube」やSNSを活用することで、入学、転学生や保護者に常に最新の情報を発信する。</p>	年間を通して実施

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営 (事務)	①校務運営の円滑化	<p>入学式、卒業式、校外学習、キャリア教育等を教学部門・全日制課程と連携し、円滑な実施を図る。また、新入生、転籍・転入生の増加を期すため、教育システムの充実、学校案内・ホームページリニューアルなど必要な予算を確保するとともに、教学部門・広報との連携を図る。</p>	1年間継続して取り組む。
	②教育環境の充実・維持	<p>生徒増を見越して昨年度末に着工した校舎新築に向けて進捗状況を把握しながら、備品やICT環境にも配慮した生徒の学習環境の充実を図る。</p> <p>つくば研究学園方面からの生徒が増加傾向にあり、本年度よりつくば駅発朝1便の運航を試験的に実施して、以後の生徒送迎に参考とする。</p>	計画的に進めると同時に、安全確保を最優先に取り組む。